



世界に通じる神戸を目指して



はじめに

グローバル化や少子高齢化の進展、地球環境問題の深刻化、世界的な都市間競争の激化など、地域経済や企業経営を取り巻く環境は、かつてないほど激変している。

社会経済情勢が急速に変化するなか、我々商工会議所が本来の使命・役割を果たしていくには、こうした時代の流れを的確に捉えるとともに、会員や地域ニーズに基づいた事業を柔軟かつ積極的に取り組んでいくことが求められる。

このような認識の下、神戸商工会議所では、昨年の大橋会頭による新体制発足を機に、これまでの活動成果を総括した上で、神戸経済の将来像を見据え、当商工会議所が取り組むべき事業などについて、2013年度を目途とする3カ年の中期行動計画を取りまとめた。

本計画の策定にあたっては、神戸市内の地域キーマンや主要業界との懇談会等を通して様々な意見を集約し、出来る限りそれらを反映することに努めた。

今後、当商工会議所は、本計画に定めた方針・事業プランに沿った事業計画を年度毎に策定し、目標達成に向けて積極的な事業活動を展開していく。

目次 [神戸商工会議所 中期行動計画 2011-13]

1	地域経済を取り巻く情勢の変化	2
2	神戸経済の発展に向けた方向	6
3	活動テーマ「世界に通じる神戸を目指して」	10
4	神戸商工会議所事業プラン	12
	Ⅰ 企業活力	
	【重点事業プラン】 国際ビジネス展開サポートプラン「ターゲット・アジア」の実施	
	Ⅱ 地域活力	
	【重点事業プラン】 健康医療ビジネス推進プラン「ナレッジKOBE」の展開 デザイン都市推進プラン「+design KOBE」の実施	
	Ⅲ 組織力	
	【重点事業プラン】 会員交流プラン「チャレンジ10,000」の展開	
5	事業推進に向けた組織基盤の整備	22
	(参考)「JOINT ACTION08-10」(平成20年～22年)の成果と課題	24

1

地域経済を取り巻く情勢の変化

- 東日本大震災の影響
- 経済のグローバル化の進展
- 環境・エネルギー問題の顕在化
- 都市間競争の激化

2

神戸経済の発展に向けた方向

- グローバル化に対応した産業の活性化
- 次世代型成長産業の創出
- 街の魅力づくりと産業インフラの整備

3

活動テーマ「世界に通じる神戸を目指して」

4

神戸商工会議所事業プラン

企業活力

グローバル経済に対応した中小企業の
ビジネスチャンスの拡大と経営力強化

重点事業プラン

- ◆国際ビジネス展開サポートプラン
「ターゲット・アジア」の実施

関係する内外の海外展開支援機関等との連携・ネットワークの下、意欲ある
中小企業によるアジア新興国等への海外展開をサポートする。

一般事業

- ◆中小企業の経営力強化
- ◆商談・ビジネスマッチング事業の強化
- ◆地域商業活性化支援の拡充
- ◆人材活用事業の強化

地域活力

神戸の強みを活かしたビジネスモデルの構築と
都市魅力の発信

重点事業プラン

- ◆健康医療ビジネス推進プラン
「ナレッジKOBE」の展開

神戸の強みである医療産業都市構想や次世代スーパーコンピュータなどの立地
を活かし、新ビジネスや高付加価値型産業の創出、内外からの関連企業の誘致を
図る。

重点事業プラン

- ◆デザイン都市推進プラン
「+design(プラス・デザイン)KOBE」の実施

中小企業のデザイン経営導入を促進し、企業ブランドの向上に努めるとともに、
デザイン性に優れた企業の育成や内外からの人材の集積、デザイン都市に相応し
い景観形成などに取り組み、神戸の都市イメージの向上を図る。

一般事業

- ◆集客観光の推進
- ◆環境・エネルギービジネスの育成
- ◆神戸空港の機能強化と関西3空港の一体運営
- ◆国際物流拠点の機能強化

組織力

会員ネットワークの活用による
新たな交流機会の創出と政策提言力の強化

重点事業プラン

- ◆会員交流プラン
「チャレンジ10,000」の展開

様々な会員同士の交流事業や交流組織の拡充・強化を通じて、3年間で延べ
10,000名による会員の相互交流を促し、会員企業のビジネスチャンス拡大や人脈
づくりに取り組む。

一般事業

- ◆11,000会員の維持・拡大
- ◆会員満足度の向上
- ◆政策提言・要望活動の強化
- ◆情報発信力の強化

5

事業推進に向けた組織基盤の整備

1 地域経済を取り巻く情勢の変化

ア ジアを中心とする新興国の台頭や環境・エネルギー問題の顕在化、グローバルな産業競争の激化など、世界経済の潮流が大きく変化するなか、3月11日に発生した東日本大震災は、デフレや消費低迷が続く日本経済に大きなダメージを与えた。

現 在、震災で落ち込んだ経済活動は正常化しつつあるが、原発事故を契機とする電力不足に加え、欧米経済の減速や歴史的な円高が企業経営の重しとなり、国内産業の空洞化や雇用の悪化など、地域経済にも大きな影を落としている。

一 方、経済のボーダレス化が都市間における世界的な競争をより熾烈なものにしており、アジアの諸都市が台頭するなか、グローバルな視点から人と企業を呼び込む都市戦略の優劣が問われる時代となっている。

1 地域経済を取り巻く情勢の変化

1 東日本大震災の影響

- 平成23年3月11日に発生した東日本大震災は、東北から関東に至る広い範囲に甚大な被害をもたらすとともに、取引先の被災や原発事故による風評被害、外国人観光客の激減など、その影響は神戸はもとより全国に及んだ。特に、サプライチェーン障害が与えた経済的影響は、中小製造業が日本経済を根底から支える実態を改めて浮き彫りにした。
- 現在、消費マインドの回復やサプライチェーン復旧が進み、震災で落ち込んだ経済活動は正常化しつつあるが、災害へのリスク分散や歴史的な円高などを背景とした国内産業の空洞化が懸念されている。
- さらに、福島第1原発事故を契機とした原発運転停止問題は、全国的な電力不足を引き起こし、国内における企業活動の大きな足かせとなっている。

2 経済のグローバル化の進展

- 経済のグローバル化により、人・企業・資本などの国境を越えた往来が活発化し、新市場の拡大や国際競争の激化とともに、世界経済の相互依存や連動性がますます強まっている。
- 急速な発展を遂げる中国などアジアを中心とする新興国では、消費市場の拡大とともに、各国のシェア争いが激化している。少子高齢化などにより国内市場の頭打ちが鮮明になる中、これらの成長市場を取り込んでいくことは、もはや国内企業にとっても規模の大小を問わず、喫緊の課題となっている。
- 一方、欧米の景気減速や財政不安を起因とする歴史的な円高は長期化の様相を呈し、輸出企業を中心に、震災からの復興途上にある日本経済に深刻な打撃を与えている。



3 環境・エネルギー問題の顕在化

- 新興国の経済成長や世界的な人口増加に伴う資源需要の高まり、エネルギー消費量の急激な拡大により、地球温暖化など世界的な環境問題が深刻化している。
- 一方、福島第一原発事故以来、国の原子力政策の抜本的な見直しが不可避となり、太陽光・風力・水力など再生可能エネルギーの活用を含めた中長期の総合的なエネルギー政策の策定が急務となっている。
- このように環境・エネルギー問題への対応が急がれるなか、関連技術や商品、サービスなど環境・エネルギービジネス市場は大きな成長が見込まれ、独自の技術力を有する企業にとって新たな商機が生まれることが期待されている。

4 都市間競争の激化

- 経済のボーダレス化は、国や地域の垣根を取り払い、都市間における世界的な競争をより熾烈なものにしている。
- アジアの諸都市が著しい経済成長を遂げるなか、将来にわたって都市が持続的な発展を果たしていくためには、産業クラスターの形成やインフラ整備、新しい都市ブランドづくりなど、ハード・ソフト両面で人と企業を呼び込むグローバルな都市戦略が重要になっている。
- また、グローバル化の進展に伴い、メガリージョンと呼ばれる広域地域が戦略的な域内統合や集積により競争力を高めつつあり、関西においても、域内の産業集積や経済インフラなどを活かし、広域経済圏として存在感を発揮していくことが期待されている。

2 神戸経済の発展に向けた方向

神 戸経済の発展に向けては、アジア市場の拡大やグローバルな企業間・都市間競争の激化など、地域経済を取り巻く情勢の変化を踏まえ、産業集積や都市ブランドなど、神戸が有するポテンシャルをさらに伸ばしていく必要がある。

地 域経済を支える中小企業については、独自技術や商品の付加価値向上などにより、経営力強化を図るとともに、ダイナミックな発展を遂げるアジアの活力を取り込んでいくことが不可欠となっている。併せて、産業クラスターや先端研究施設の集積を活かし、国際競争力を持つ次世代の高付加価値産業を育成していくことが求められる。

さ らに、内外から人・企業・投資などを呼び込むため、新しい観光資源の開発や景観形成など街の魅力に磨きかけるとともに、陸・海・空の産業インフラを整備し、国内だけでなく世界から選ばれる都市“KOBE”を目指した取り組みを進めていく必要がある。

2 神戸経済の発展に向けた方向

1 グローバル化に対応した産業の活性化

- 神戸経済の発展に向けては、急速な経済のグローバル化に対応し、地域経済を支える中小企業をはじめとする産業の活性化を図っていくことが重要である。
- 神戸に集積するモノづくり産業については、産学や企業間連携を通じた新分野・新製品の開発を推進していくとともに、高度な技術やブランド力を活かして積極的な海外展開を図り、アジアを中心とする新興国の外需を取り込んでいくことが必須の課題となっている。
- アパレル・洋菓子・清酒など生活文化産業に関しては、優れたデザインやブランド力をブラッシュアップし、商品の付加価値向上に努めていく必要がある。同時に、アジア諸国の富裕化をビジネスチャンスと捉え、現地での神戸ブランドの確立など、海外販路の拡大に取り組んでいくことが望まれる。
- 近隣商圈との競争激化が予想される小売商業については、個店や商店街の魅力づくりに取り組むとともに、地域の個性を活かした街づくりや観光資源と連携した取り組みなどにより、神戸らしい独自の商業力を強化していく必要がある。併せて、外国人観光客の増加に対応した受入体制の整備に努めることが求められる。

2 次世代型成長産業の創出

- 神戸経済の活性化には、既存産業の高度化・活性化とともに、次代を担う成長産業や高付加価値産業の育成・誘致が重要である。
- ポートアイランド第2期では、神戸医療産業都市構想が着実に進展し、既に世界的な研究機関や200社を超える医療関連企業が集積している。欧米やアジア各国で大規模なメディカルクラスターの整備が進む中、これらの国・地域と伍していくには、高度専門病院・大学・研究所・企業などが集結した「アジアのメディカルセンター」の形成に取り組んでいく必要がある。同時に、先端医療分野だけでなく、ヘルスケア（健康・医療）分野への参入を進め、地元企業の活性化に繋げていくことが求められる。



- 世界最高性能を記録した次世代スーパーコンピュータを活用し、医療産業都市構想と連携したライフサイエンス分野の研究開発や高付加価値型のモノづくり産業の創出に取り組み、産業構造の転換を図る必要がある。
- 地球環境問題の深刻化や、東日本大震災の原発事故を契機とした電力・エネルギー問題に対応し、地元モノづくり産業に蓄積する省エネ・新エネ技術を活かした中小企業の環境ビジネスを振興していくことが望まれる。

3 街の魅力づくりと産業インフラの整備

- 今後の神戸の街の発展を考える上では、ファッション、ハイカラなど神戸独自の都市ブランドに磨きをかけるとともに、陸・海・空の産業インフラを整備し、都市の強みや優位性、特徴をさらに伸ばしていく必要がある。
- 21世紀のリーディング産業と目される観光産業の振興については、六甲・摩耶や有馬温泉、山・海からの夜景など、神戸ならではの観光資源の充実を図るとともに、コンベンション施設の更なる充実、モノづくり・ファッションなどにスポットを当てた産業観光の推進などに取り組んでいく必要がある。特に、急増する東アジアからの外国人観光客を誘致するため、広域観光の推進や国・地域別に対応した情報発信の充実など、インバウンド対策を強化することが不可欠である。
- 街づくりの面では、「デザイン都市・神戸」を具現化するエリアである都心ウォーターフロントの活性化や神戸の玄関口である三宮駅周辺地域の景観整備など、神戸の街の魅力をさらに高め、都市イメージを向上させる取り組みが必要である。
- 産業インフラについては、関空・伊丹の経営統合が進む中、当面は都市型海上空港としての神戸空港の利点を活かし、運用規制の緩和など機能強化を図ることが急務となっている。同時に、関西圏航空需要の最大化に向けて、将来の関西3空港の一体化を実現する必要がある。また、国際コンテナ戦略港湾・阪神港として、神戸港の国際競争力を強化するとともに、大阪湾岸道路西伸部の早期実現など幹線道路網の拡充を図っていく必要がある。

3 活動テーマ 「世界に通じる神戸を目指して」

3

活動テーマ

「世界に通じる神戸を目指して」

グローバル化の急速な進展の下、中国をはじめとする新興国等の台頭に伴い、米国一極体制から世界経済の分極化が進むとともに、地球規模での大競争時代（メガコンペティション）が到来し、地域や企業にも変革を迫っている。

経済に国境がなくなった今、神戸が将来にわたって発展を遂げていくには、国内の近隣都市と協調しつつも、世界的な視野に立って神戸の特長や優位性を活かし、成長するアジアの諸都市とのグローバルな都市間競争に打ち勝っていく必要がある。

幸い、神戸にはモノづくりや生活文化産業の集積に加え、世界最高性能を誇る「次世代スーパーコンピュータ」や高度先端医療の世界的な研究機関・企業が集まる「神戸医療産業都市構想」など知の創造拠点が形成されつつある。これらの神戸の強みを梃子に、世界に通用する新しい成長産業を創出するとともに、内外から人や企業を呼び込み、次代に相応しい産業構造に転換していくことが求められる。

また、企業経営においても、地域経済を支える中小企業が、従来のローカルな市場での基盤強化を図ると同時に、新興国の成長市場に積極的に参入し、新たなビジネスフロンティアを切り拓いていくことが不可欠である。

併せて、東アジアからのインバウンド対策を充実・強化し、内外両面からアジアの活力を取り込んでいかなければならない。

元来、神戸は慶応3年（1868年）の神戸港の開港を起点に、海外との交流や貿易を行う国際港湾都市として発展してきた。グローバル化が進展するなか、これからの神戸の街、そして産業が持続的な成長・発展を遂げていくには、今一度、世界に開かれた神戸の原点に立ち返り、海外との交流・連携の中から新しい価値を創造していく次の未来図を描いていくことが重要である。

このような認識の下、当商工会議所では、「世界に通じる神戸を目指して」をテーマに、KOBEが国際社会においてプレゼンスを示していくため、中小企業の活性化や産業活力の向上、都市魅力の創造などの観点から、具体的な事業プランを次のように進めていく。

4 神戸商工会議所事業プラン

グローバル化が加速するなか、地域経済や商工会議所を取り巻く環境の変化や神戸経済の発展に向けた方向を踏まえた上で、「地域の経済社会の繁栄に貢献する」「会員満足度の最大化を図る」という当商工会議所の活動理念に基づき、本計画の最終年度（2013年度）に目指すべき姿と、当商工会議所がその実現に向けて取り組むべき事業プランを、「企業活力」「地域活力」「組織力」の3つのテーマにとりまとめた。

とりわけ、優先度の高い4つの事業を「重点事業プラン」として取り上げ、その目標達成に向けて集中的に取り組む。

I 企業活力 グローバル経済に対応した中小企業のビジネス

【2013年に目指すべき目標】

- 経営革新に挑戦する中小企業や地域における起業・開業が増加する。
- 地元中小企業のアジアをはじめとした海外市場への参入が進み、国際的なビジネス取
- 会員ネットワークを活用した商談会等が活発に行われ、新たな取引や事業連携が進
- 地域商業において、集客や賑わいづくりのための取り組みが進み、魅力あるエリアと

【重点事業プラン】

国際ビジネス展開サポートプラン 「ターゲット・アジア」の実施

狙い

- 関係する内外の海外展開支援機関等との連携・ネットワークの下、意欲ある中小企業によるアジア新興国等への海外展開をサポートする。

取組方向

- 中小企業の国際ビジネスに関する個別ニーズに応えるワンストップ支援体制を構築する。
- 中小企業の国際ビジネス展開を人材面から支援するため、経験豊富な大企業OBの活用等の仕組みづくりを進める。
- 国際ビジネスに関する最新情報の提供、外国企業とのビジネス交流、地元中小商社と県下中小メーカーとの商談・ビジネスマッチングの促進、外国企業との実務的な個別商談を目的としたビジネスミッションの派遣など、中小企業の海外展開を包括的に支援する事業を展開する。

アクションプラン

- 海外ビジネス支援総合ネットワーク窓口の開設
- 「中小企業国際ビジネス・ボランティア・サポート事業」の創設
- アジア市場進出のための入門・専門研究会の設置
- 内外の海外展開支援機関等との連携強化
- 中小貿易商社と地元製造業との商談交流会の開催
- 海外ビジネスミッションの派遣

チャンスの拡大と経営力強化

引が活発化する。

む。

して再生する。

【一般事業】（従来事業を拡充・強化するもの）

テーマ	取組方向	アクションプラン
中小企業の経営力強化	<ul style="list-style-type: none"> ● 起業・開業や経営革新に重点を置いた対応強化 ● 外部の中小企業支援機関や専門家・大学等との連携強化 	<ul style="list-style-type: none"> ● 起業・開業をはじめ経営革新等に係るワンストップ支援体制の構築 ● ネットワーク活用型経営支援体制の整備 ● 経営指導員の経営相談・提案能力の向上
商談・ ビジネスマッチング 事業の強化	<ul style="list-style-type: none"> ● 中小企業の販路拡大に向けた様々な切り口によるテーマ別商談会の拡充 ● 商品・サービスに関する取引照会や相談機能の強化 	<ul style="list-style-type: none"> ● 商取引マッチングプログラムの実施 ● 製造業ビジネスマッチングシステムの構築 ● ビジネスマッチングセンター機能の強化
地域商業活性化支援の 拡充	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域商業の活性化に向けた各個店や地域における観光資源の発掘・紹介 ● 地域商業の人材育成支援や街づくりと一体となった商店街・小売市場の活性化 	<ul style="list-style-type: none"> ● 商店観光ツアーの開催支援 ● 商業活性化リーダーの育成支援
人材活用事業の強化	<ul style="list-style-type: none"> ● 中小企業の海外ビジネス展開や新商品開発、生産・財務管理など専門分野での人材活用事業の強化 	<ul style="list-style-type: none"> ● 企業OB等との人材マッチング事業の実施 ● 企業ニーズに対応した人材育成セミナーの充実

Ⅱ 地域活力 神戸の強みを活かしたビジネスモデルの構築

【2013年に目指すべき目標】

- 地元企業のヘルスケア（健康・医療）分野への参入事例が増加するとともに、環境ビジネスの取り組みが広がる。
- 次世代スーパーコンピュータの活用による産業集積や地元モノづくり産業の高度化が進む。
- デザイン経営が浸透し、企業とデザイナーとのビジネスマッチングが進むことにより、クリエイティブな人材が神戸に集積する。

【重点事業プラン】

健康医療ビジネス推進プラン 「ナレッジKOBЕ」の展開

狙い

- 神戸の強みである医療産業都市構想や次世代スーパーコンピュータなどの立地を活かし、新ビジネスや高付加価値型産業の創出、内外からの関連企業の誘致を図る。

取組方向

- 医療関連産業の集積を梃子に、先端医療のみならず関連機器・食品・観光など、地元企業のヘルスケア（健康・医療）分野への参入促進による裾野拡大に取り組む。
- 次世代スーパーコンピュータの産業利用を通じて、新産業の集積や地元モノづくり産業の高付加価値化を促進する。
- アジア・世界に貢献する「アジアのメディカルセンター」の実現に努め、内外の医療需要の取り込みと関連産業の誘致を図る。

アクションプラン

- ヘルスケア産業創出モデル事業の実施
- 地元企業等の次世代スーパーコンピュータの利用拡大に向けた支援
- 高度専門病院・大学・研究機関・企業等の集積と交流・ネットワーク化の促進
- 産学・産産連携による新ビジネス創造に向けた仕組みづくり



- 都心ウォーターフロントの活性化やアジアのメディカルセンターづくりが進展し、神戸らしさを先導するリーディングエリアとしての姿を見せる。
- 神戸の観光資源の活用や広域観光事業の推進などにより、国内外の観光客誘致が進む。
- 神戸空港の機能強化に向けた取り組みが進展を見せると同時に、関西3空港一体運用の機運が高まる。
- 国際コンテナ戦略港湾のプロジェクトが進み、神戸港の国際競争力が強化される。

【重点事業プラン】

デザイン都市推進プラン

「+design(プラス・デザイン)KOBE」の実施

狙い

- 中小企業のデザイン経営導入を促進し、企業ブランドの向上に努めるとともに、デザイン性に優れた企業の育成や内外からの人材の集積、デザイン都市に相応しい景観形成などに取り組み、神戸の都市イメージの向上を図る。

取組方向

- 中小企業の商品価値や企業価値を高めるため、デザインを付加した新製品開発・販売促進など、デザイン経営を多面的に支援する。
- 生活文化産業やデザイン性に優れた神戸の商品・サービス等を広く情報発信することにより、「デザイン都市・神戸」を内外にアピールする。
- 都心ウォーターフロントの活性化や街並み整備など、魅力ある景観形成に取り組む。

アクションプラン

- 企業とデザイナーをリアルとバーチャルで結ぶ「KOBEデザインマッチング事業」の展開
- デザインビジネスの新しい成功事例等を発信する「神戸デザインコレクション」の実施
- 「デザイン都市・神戸」を具現化する都市ウォーターフロントの活用や街並み整備に向けた提言

【一般事業】(従来事業を拡充・強化するもの)

テーマ	取組方向	アクションプラン
集客観光の推進	<ul style="list-style-type: none"> ● 歴史や自然など神戸独自の観光資源を発掘・活用した国内観光客の誘致促進 ● 関西の商工会議所や行政等との広域的連携によるインバウンド誘致 	<ul style="list-style-type: none"> ● 大河ドラマ「平清盛」関連プロジェクトの推進 ● 外国人観光客に向けた広域観光モデルコースの設定
環境・エネルギービジネスの育成	<ul style="list-style-type: none"> ● 省エネ・新エネをテーマにした中小企業と大手企業との技術・製品・サービスなど相互交流事業の展開 ● 環境・エネルギービジネスに関する研究 	<ul style="list-style-type: none"> ● 環境・エネルギービジネスマッチング事業の実施 ● 環境・エネルギービジネスセミナーの開催
神戸空港の機能強化と関西3空港の一体運用	<ul style="list-style-type: none"> ● 神戸空港の利便性向上に向けた機能強化 ● 関西の航空需要の最大化に向けた関西3空港の一体化の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ● 神戸空港の利用促進事業の強化 ● 神戸空港の運用規制の緩和と関西3空港の一体化に向けた合意形成
国際物流拠点の機能強化	<ul style="list-style-type: none"> ● 国際コンテナ戦略港湾・阪神港としての神戸港の国際競争力の強化 ● 大阪湾岸道路西伸部など幹線道路網の整備促進 	<ul style="list-style-type: none"> ● 神戸港の利便性向上に向けた取り組み強化 ● 大阪湾岸道路西伸部の早期事業化への要望活動の強化



Ⅲ 組織力 会員ネットワークの活用による新たな交流機会の

【2013年に目指すべき目標】

- 多様な交流事業が開催され、会員ネットワークやビジネスチャンスの拡大に寄与
- 若手経営者をはじめ様々な交流組織の組成等により、新たな事業企画や意見活動が活
- 会員サービスメニューの充実や新たなサービス事業の導入などにより、会議所活動へ
- 会員企業の意見やアイデアを反映した政策提言・要望が行われ、会員企業の経営力強

【重点事業プラン】

会員交流プラン 「チャレンジ10,000」の展開

狙い

- 様々な会員同士の交流事業や交流組織の拡充・強化を通じて、3年間で延べ10,000名による会員の相互交流を促し、会員企業のビジネスチャンス拡大や人脈づくりに取り組む。

取組方向

- 多様なテーマや切り口による会員交流事業を数多く企画・開催するとともに、運営方法や広報等に工夫を施し、会員相互の意思疎通が図られる運営を目指す。
- 次代を担う若手経営者をはじめ階層別・地区別の新たな交流組織を立ち上げるとともに、女性会など既存組織の活性化を図る。

アクションプラン

- 会員交流事業を体系化した「KOBEBiznessミーティング」の展開
- 若手経営者交流会をはじめテーマ別・地区別など新たな交流組織の設置
- 様々な切り口による商談会など各種ビジネスマッチング事業の実施

創出と政策提言力の強化

する。
 発化する。
 の参画機会が拡大し、11,000会員を維持・拡大する。
 化や地域経済の活性化が進む。

【一般事業】（従来事業を拡充・強化するもの）

テーマ	取組方向	アクションプラン
11,000会員の維持・拡大	<ul style="list-style-type: none"> ● 組織基盤の強化(会員増強並びに会員定着率の向上)に向けた全所のかつ戦略的な取り組みを進め、11,000会員を維持・拡大 	<ul style="list-style-type: none"> ● 会員加入推進等に関する全所的戦略の策定・実行 ● 神戸市内本社企業の組織率向上 ● 事業の利用拡大に向けたPR・マーケティング戦略の実行
会員満足度の向上	<ul style="list-style-type: none"> ● スケールメリットを活かした会員サービス事業の拡充 ● 会議所事業への会員参画の拡大 	<ul style="list-style-type: none"> ● 生命共済制度加入者など各種共済制度の拡充 ● 海外人事業務フルサポート事業や中小企業向け保険制度の開発・導入 ● こうべdeカード事業の強化並びに新たな会員サービス事業の開発
政策提言・要望活動の強化	<ul style="list-style-type: none"> ● 国内外の経済・社会情勢及び個別経営動向調査の充実・強化 ● 地域経済の現場に立脚した政策提言機能の強化と効果的な要望活動の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ● 会員企業を対象にしたヒヤリング活動のほか、経済・経営に関する各種調査活動の拡充 ● 部会・委員会活動を通じた意見集約の拡充 ● 事務局の情報収集・調査分析力の向上
情報発信力の強化	<ul style="list-style-type: none"> ● 当商工会議所の事業活動に関する情報発信・広報機能の強化 ● 会員企業の情報発信支援の強化 ● インターネット等の積極的な活用 	<ul style="list-style-type: none"> ● 機関紙及びホームページのリニューアル・機能強化 ● インターネットやマスメディアを活用した会員企業の情報発信支援

5 事業推進に向けた組織基盤の整備

活 動理念や事業プランに沿って実践・推進し、目標とする効果を上げていくためには、その活動基盤となる「財政力」や「事務局機能」をより強力かつ強固なものとしていくことが求められる。

については、中期的な財政計画（目標）により一層の財政安定化を図るとともに、効果的・効率的な事業の遂行に向けて、事務局体制の再編並びに機能強化に努める。

5 事業推進に向けた組織基盤の整備

活動理念や事業プランに沿って実践・推進し、目標とする効果を上げていくためには、その活動基盤となる「財政力」や「事務局機能」をより強力かつ強固なものとしていくことが求められる。

このため、計画遂行の前提となる組織基盤の整備・強化に、以下の通り取り組む。

1 財政基盤の安定化

- 財政の現状については、事業関係収支は概ね堅調に推移する一方、会館の大規模修繕に伴う積立金の取り崩しなどにより、全会計残高（積立金会計を含む）は減少傾向となっている。
- ついては、中期的な財政計画を取りまとめ、新事業の開発、既存事業の見直し、会館収益の拡大、経費節減などを通じて一層の財政安定化を図る。

- i) 中期財政計画による目標設定
- ii) 会員組織の維持・拡大による会費収入の確保
- iii) 新たな事業開発による財政貢献
- iv) 既存事業の見直しと収支改善・伸長
- v) 神戸商工会館の利用拡大に向けた営業強化

2 事務局機能の強化

- 事務局の行動指針に掲げる「常に挑戦し続ける創造的な事務局」として「会員満足最大化」を目指し、効果的・効率的に事業を遂行するために、次の視点に立って事務局体制の再編及び機能強化を図る。

- i) 総合事業拠点としての支部機能の集約及び体制強化
- ii) 会員の意見集約による政策提言機能の強化に向けた体制整備
- iii) 会員向け発信機能及び広報体制の強化
- iv) 事業優先度やタスクに応じた事務局再編と人員の適正配置
- v) 事務局員の資質向上

参 考

「JOINT ACTION08-10」(平成20年～22年)の成果と課題

神 戸商工会議所は、平成20年11月に中期行動計画「JOINT ACTION08-10」を取りまとめ、「企業活力の創出」「都市力の創造」「会員組織力の発揮」の3テーマの下、3年間にわたり各種事業を展開してきた。

今回の計画策定にあたり、過去3年間にわたって取り組んできた当商工会議所の主な成果及び課題を振り返る。

1 企業活力の創出

主な成果

- 世界同時不況に対する「緊急経済対策本部」のほか、「新型インフルエンザ」や「東日本大震災」等に対応。特別相談窓口の設置など、影響を受ける中小企業を支援。
- 支部における巡回訪問件数37,000件。窓口相談件数23,000件。
- 「経営革新塾」や「創業塾」を開催。日本生産性本部「実効力ある経営」認証評価制度／継続・導入認証8社。経営革新計画認証21件。創業塾に121名参加。
- 商店観光ツアー、商店街の実態調査や販売促進支援活動、イベント支援等を実施。
- 「ジョブ・カード制度」「合同就職面接会」「新卒者向け合同企業説明会」「新現役チャレンジ支援事業」等人材マッチング事業を実施。
- 販路開拓市をはじめ会員企業の販路拡大支援事業を展開。
- ビジネス交流ミッションの派遣（台湾、UAE、サウジアラビア）、貿易・投資関連セミナーの開催など海外ビジネス展開支援事業を展開。



今後の課題

- 少子高齢化やデフレ経済の浸透などに対応しつつ、経営戦略や新分野進出など個別・専門的な経営課題への支援にさらに取り組む必要がある。
- 商談・ビジネスマッチング事業に対する中小企業からのニーズは強いいため、今後も様々な切り口・テーマによる商談機会の拡充が求められる。
- 取引照会の件数及びマッチングの精度を高めるため、ニーズ内容に見合うシーズ情報の収集に努め、提案力をさらに高める必要がある。
- 急増・多様化する海外ビジネス支援ニーズに対応するため、中小企業の海外展開に関する総合的・体系的な支援体制の構築が求められる。



2 都市力の創造

主な成果

- 会員企業と医療関連企業のマッチング事業、ヘルスケア産業に関する調査等を実施。
- KOBEデザイナーズネット創設。会員企業とのマッチング事業を実施。
- 全国商工会議所観光振興大会を開催、約1,700名が参加。
- 各種観光ガイドブック・マップ作成などホスピタリティ向上運動を推進。
- 関西3空港懇談会で関西3空港の一元管理で合意。
- 阪神港（神戸港、大阪港）として国際コンテナ戦略港湾に選定。



今後の課題

- 神戸医療産業都市構想への地元企業の参画や、デザイナーと企業とのビジネスマッチング等を一層増加させる必要がある。
- 国内外の観光客誘致に向けて、観光資源の発掘・効果的な周知に努めるとともに、近隣の商工会議所等と連携を深め、広域的な取り組みを強化することが求められる。
- 神戸空港の運用規制の緩和及び関西3空港の一体運用を目指し、引き続き取り組む必要がある。
- 神戸港の国際的地位を高めるため、機能強化や利用促進に引き続き取り組む必要がある。

3 会員組織力の発揮

主な成果

- 各種異業種交流会の運営、新たな交流グループの設置等
- 会報誌やHP等による情報発信のほか、支部通信（KCCI CROSS）やHP・ポータルサイト「神戸ビジコレ」を新たに発行・開設。
- 地域経済や中小企業の振興等38件の要望・提言を取りまとめ関係先へ提出。



今後の課題

- 会員数を維持・拡大するとともに、会員満足度の向上を図るため、より魅力ある事業展開や会員目線に立ったサービスメニューの見直しに取り組む必要がある。
- 会員企業の交流事業に対するニーズは高いため、交流機会を一層増加させるとともに、参加しやすい環境づくりに努めることが求められる。
- 地域経済の現場に立脚した政策提言・要望活動を行うため、独自の調査機能、情報収集力をさらに高める必要がある。



THE KOBE CHAMBER OF COMMERCE AND INDUSTRY

〒650-8543 神戸市中央区港島中町6-1

2011年11月